

出雲市中野清水遺跡の検討

－遺跡の範囲と出土土器の特徴－

中 川 寧

中野清水遺跡は島根県出雲市中野町、出雲平野の中央やや東側に所在する。平成14～16（2002～2004）年度に、島根県教育委員会が出雲バイパスの建設に先立ち発掘調査を行った。道路部分の長さ約400m、幅約50mにかけて、東西にトレンチを開けたような格好である（第1図、第2図、第3図）。報告書は3か年で3冊が刊行されているが、出雲平野北部の山持遺跡のように調査成果をまとめた冊子は刊行されておらず、個別の報告書の総括で言及されているにとどまる。

本論は中野清水遺跡の18ある調査区の遺構や遺物の消長や粗密について検討し、各調査区の層位と遺構の標高を考察して、遺跡の特徴を明らかにする。また、中野清水遺跡Ⅵ区の東に位置する大津町北遺跡、中野清水遺跡の西側に位置する中野美保遺跡や中野西遺跡も必要に応じて言及する。

調査区の動向を示す第1表は、『古代学研究会2014年拡大例会・シンポジウム 集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』の表に参考に作成した。時期の比定は、弥生時代前期から後期は（松本1992）、古墳時代前期前葉から中葉は（鹿島町教育委員会編1992）、（松山2000、2002）、古墳時代前期中葉から中期は（池淵2008）（松山2015）、古墳時代中期から後期は（大谷1994）、飛鳥・奈良時代は（岡田ほか2010）を参考に中川が行った。

【弥生時代】

中野清水遺跡では弥生時代前期の土器は出土していない。中野清水遺跡から約700m西の中野美保遺跡の八つある調査区のうち複数の調査区で土器が出土している。また、出雲市教育委員会が調査した中野美保遺跡や中野西遺跡でも土器が出土している。中野清水遺跡ではⅤ区で中期前葉の土器が、Ⅶ区、Ⅷ区及び2区と3区の14層から中期中葉の土器が出

土している。中期中葉には中野美保遺跡の西側のⅦ区で方形貼石墓が確認されている。また、中野美保遺跡Ⅷ区、中野西遺跡、中野清水遺跡Ⅷ区では焼成時破損土器（文献1、147-3.5）があり、規模は不明ではあるものの、それぞれの遺跡で土器の焼成が行われていることになる。中期後葉の土器は中野清水遺跡2区や3区で見つかっており、遺跡の西側に見られる。また、3区では15層上面で土坑が見つかっており、遺構の標高は約5.0mである。なお、中野美保遺跡の標高は4m前後で、西側のほうがわずかであるが低い。

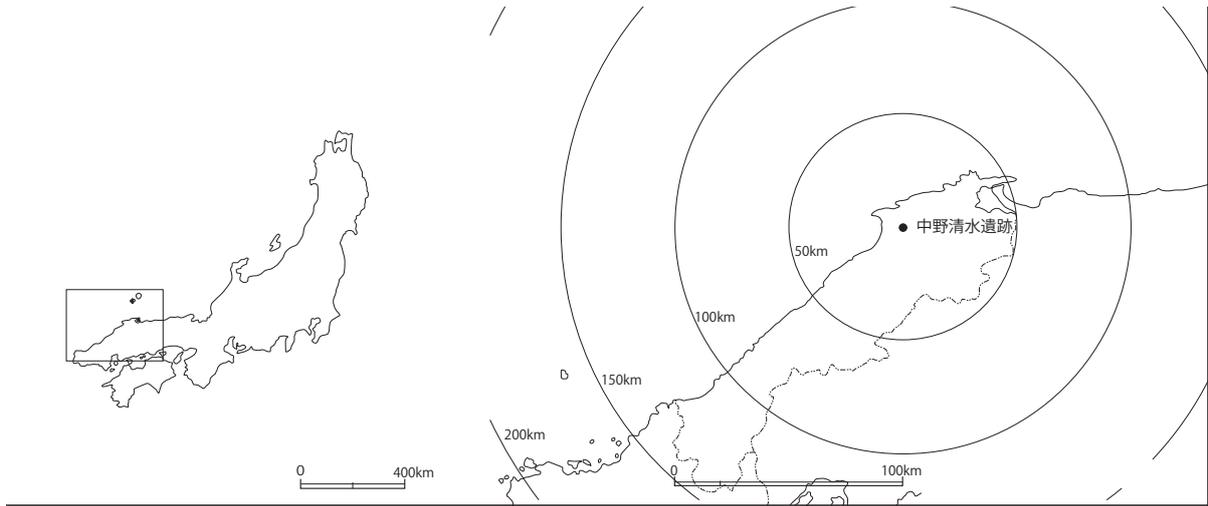
弥生時代中期は、中野清水遺跡の西側から中野美保遺跡の東側、中野美保遺跡の中央北側から中野西遺跡にかけての範囲に、遺構が築かれ土器が出土していることになる。

後期に入り、Ⅴ-1様式には中野清水遺跡の東側でも土器が出土するようになり、次第に遺跡の中央から東側の調査区にも広がる。Ⅴ-3様式には4区から5区にかけての調査区でやや土器が多く、遺構として5区14層の19号土器群がある。検出された標高は約4.9mである。

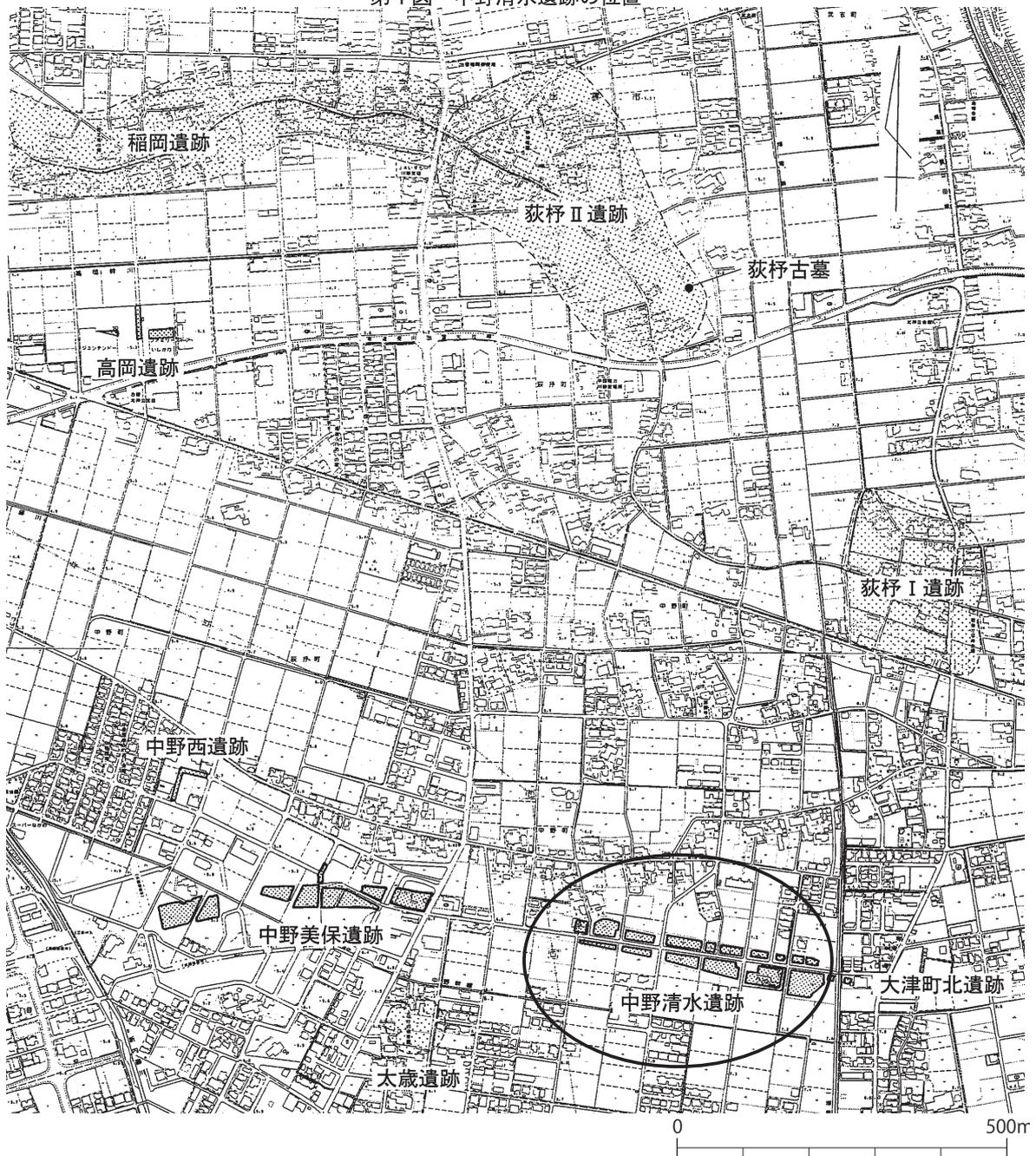
なお、中野美保遺跡Ⅶ区ではⅤ-3様式の時期に四隅突出型墳丘墓が築かれる。四隅突出型墳丘墓は上面が削平されていたが、最も高いところで標高約4.5mである。このほか中野美保遺跡のⅡ区とⅣ区で土器が出土している。墳丘墓に伴う居住地域は不明であるが、後期には中野清水遺跡の中央から西側、そして中野美保遺跡の中央から中野西遺跡の位置する北西側の範囲に遺構が築かれ土器が出土するようになる。

【古墳時代以降】

草田4期の土器が見つかる調査区は少ないが、草田5期から増え、草田6期には4区から6区にかけ



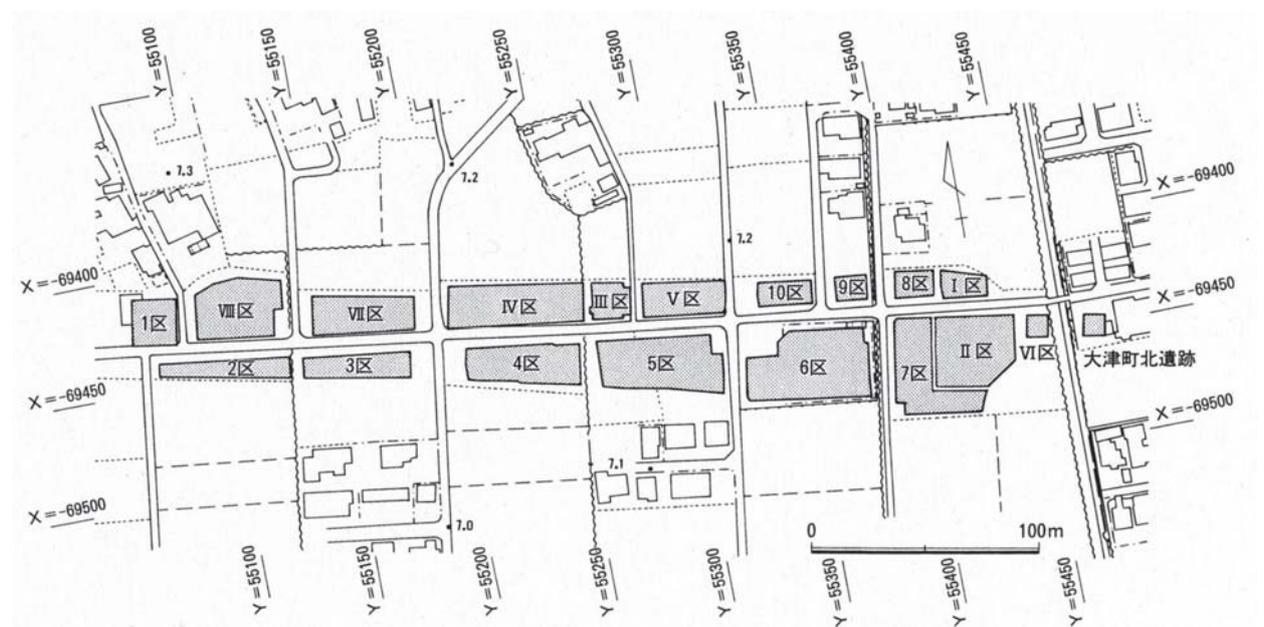
第1図 中野清水遺跡の位置



第2図 中野清水遺跡と周辺の遺跡

第1表 遺跡動態表

	弥生時代前期		弥生時代中期前葉		弥生時代中期中葉		弥生時代中期後葉		弥生時代後期			古墳時代前期			
	I	II	III-1	III-2	IV-1	IV-2	V-1	V-2	V-3	草田4	草田5	草田6	草田7		様相1
弥生／土師器															
土師器／須恵器												大木／小谷1	小谷2	小谷3	小谷4
中野清水遺跡	1区														
	VⅧ区														
	VⅦ区										土器群	土器群	土器群	土器群	
	IV区										土器群	土器群	土器群		
	III区														
	V区														
	10区														
	9区														
	8区														
	I区														
	2区														
	3区					土坑									
	4区											土坑、土器群	土器群	土器群	土器群
	5区									土器群		土坑	土器群	土器群	
	6区											土坑、土器群	土器群	土器群	土器群
	7区											溝	溝	溝	溝
II区															
VI区															
大津町北遺跡															
中野美保遺跡	V区				土坑			溝	溝						
	VI区														
	IV区														
	II区														
	I区														
	III区														
	VⅦ区					貼石墓				四隅					
	VⅧ区				土坑	土坑	土坑								
	出雲市2001									土坑					
	出雲市2005														
中野西遺跡									土坑、土器溜						



第3図 中野清水遺跡・大津町北遺跡 調査区配置図

第1表 遺跡動態表

	古墳時代 中 期						古墳時代 後 期			飛鳥 時代	奈良時代				文献
	様相2	様相3	様相4	様相5	様相6				出雲 I		出雲 II	出雲 III	出雲 IV A	出雲 IV B	
弥生/ 土師器															
土師器/ 須恵器	大東		-TK216	208-23	1期/47	2期/ (15)-10	3期/43	4期/ 209							
中野清水遺跡	1区														3
	VIII区														1
	VII区														1
	IV区								土器群						1
	III区														1
	V区														1
	10区								土器群	土坑					2
	9区												土坑、土器群		2
	8区														2
	I区														1
	2区														3
	3区														3
	4区														3
	5区	土器群							土器群	土器群	土器群	掘立			2
	6区	土器群	建物、溝	建物、溝	土器群、溝	溝							土坑、土器群		2
	7区		竪穴					溝	土坑						3
	II区							土器群		土器群			土器群		1
VI区														1	
大津町 北遺跡														1	
中野美保遺跡	V区														5
	VI区														
	IV区														
	II区														
	I区														
	III区														
	VII区														
	VIII区											土器溜	土器溜		
	出雲市 2001														4
	出雲市 2005														6
中野西 遺跡	土器溜	土器溜												7	

第2表 中野清水遺跡の調査区と土層

	弥生/土師器 土師器/ 須恵器	遺構検 出面の 標高	遺構の 底面の 標高	V-3	草田4	草田5	草田6	草田7	様相1	様相2	様相3	様相4	様相5	様相6	文献
					大木/ 小谷1	小谷2	小谷3	小谷4							
4区	14層		5.5	5.0											
5区	14層	4号土坑	4.9	4.6											
	14層	1号土器群	5.0	4.7											
	14層	2号土器群	5.0	4.8											
	14層	8号土器群	5.2	4.8											
	14層	11号土器群	5.1	4.7											甗形土器は下層
	14層	12号土器群	5.2	5.1											
	14層	13号土器群	5.2	4.7											
	14層	14号土器群	5.0	4.9											
	14層	15号土器群	5.0	4.9											
	14層	16号土器群	5.2	5.0											
6区	14層	17号土器群	5.1	4.9											
	14層	18号土器群	5.1	4.8											
	14層	19号土器群	4.9	4.7											
	13層	6号溝	5.3-5.4	4.4-5.0											16号土器群が混じる
	13層	6号土器群	5.2	5.0											
	14層	1号竪穴状	5.2	4.7											
	14層	3号竪穴状	5.3	5.0											
	14層	2号土坑	5.0	4.7											
	14層	15号土坑	5.0	4.6											
	14層	7号土器群	5.2	5.0											
7区	14層	8号土器群	5.3	5.0											
	13層	4号建物	5.0	4.5											
	13層	2号竪穴	5.3	5.1											
	13層	10号溝西	5.1	4.9											
	13層	10号溝東	5.1	4.8											
	13層	4号土器群	5.2	5.1											
	13層	5号土器群	5.3	5.1											
	14層	1号竪穴	5.2	5.0											
	14層	2号竪穴	5.2	5.1											
	14層	5号溝	5.3	4.6											

て土坑が築かれるとともに、土器群が形成され始める。草田6期から草田7期にかけては多くの調査区で土器が出土しており、特に南側の調査区では土坑や土器群が築かれ、北側のⅣ区やⅦ区でも土器の出土量が多くなる。

土器の出土状況を見ると、土器が散在する調査区(1区、2区、3区)、土器群があり出土に疎密がある調査区(5区、6区、Ⅰ区、Ⅳ区、Ⅵ区、Ⅶ区)、線状または帯状に出土する調査区(7区、Ⅷ区)がある。4区では密集して出土するが、図面では大きな二つのまとまりがあるようにもみえる。大津町北遺跡では北東側に密集して出土したとの記述があるが、調査区が狭く判断が難しい。7区の出土状況は5号溝に沿っているものと判断できる。Ⅶ区は調査区の中央から線状または帯状に出土しており、溝などの遺構の存在が示唆される。

この土器の出土量の多い状況は小谷3式まで続き、遺跡の一つのピークを迎える。小谷4式の段階には土器の出土が少なくなる。特に北側の調査区では古墳時代中期の土器の出土は少なくなり、散見される程度である。一方南側の調査区の5区、6区、7区では、古墳時代中期にも竪穴住居、土器群、溝を確認しており、古墳時代前期から引き続いて遺構が築かれている。南側の調査区、特に6区から7区にかけて遺構や遺物が多い。

古墳時代後期では、南側の5区、7区、Ⅱ区、北側のⅣ区、10区で土坑や土器群が築かれる。古墳時代中期とは場所が異なる点が興味深い。その後、奈良時代には南側の6区やⅡ区で土坑や土器群、5区では掘立柱建物が築かれる。遺構や遺物は北側にも広がり、土器の出土する調査区が多くなり、9区で土坑や土器群が築かれる。奈良時代の土器出土量は多く、再びピークを迎える⁽¹⁾。

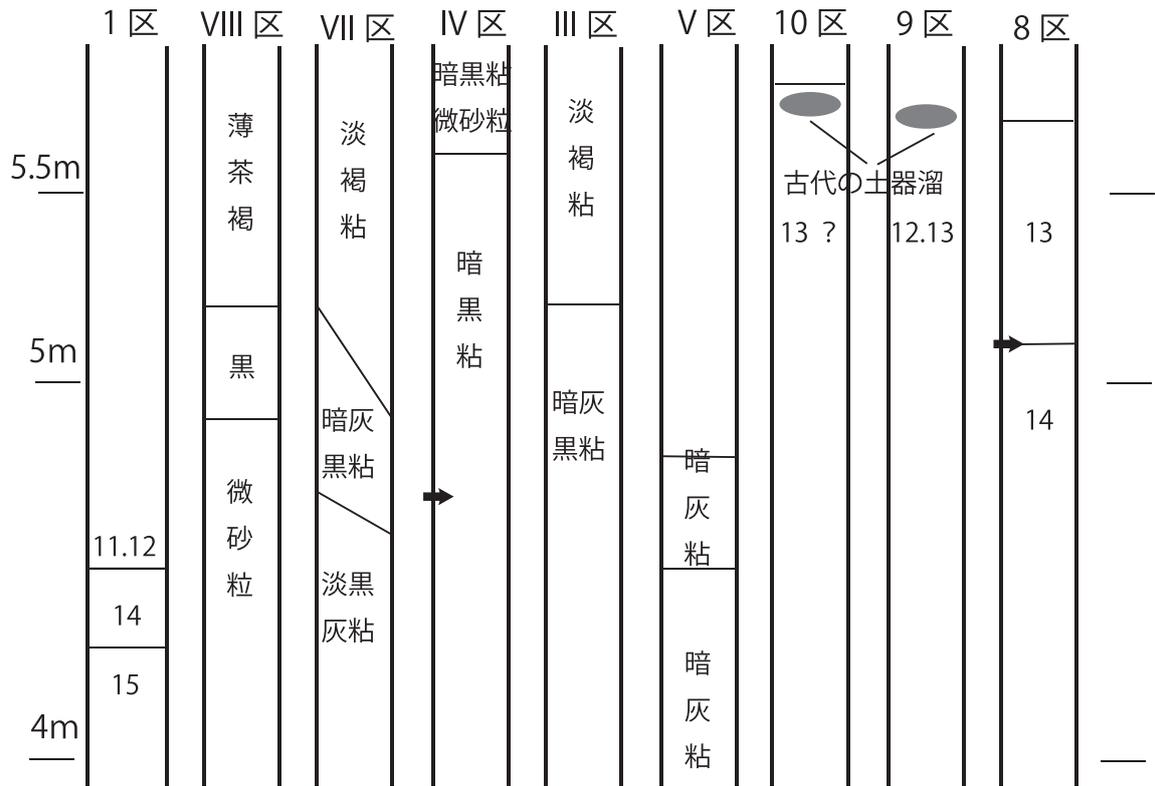
【柱状図と遺構の検討】

第4図は中野清水遺跡及び大津町北遺跡の調査区の土層を柱状に示したものである。湧水が著しく土層が記録できなかった調査区があり、特に北側では調査区ごとの土層の対応を読み取りにくい部分があ

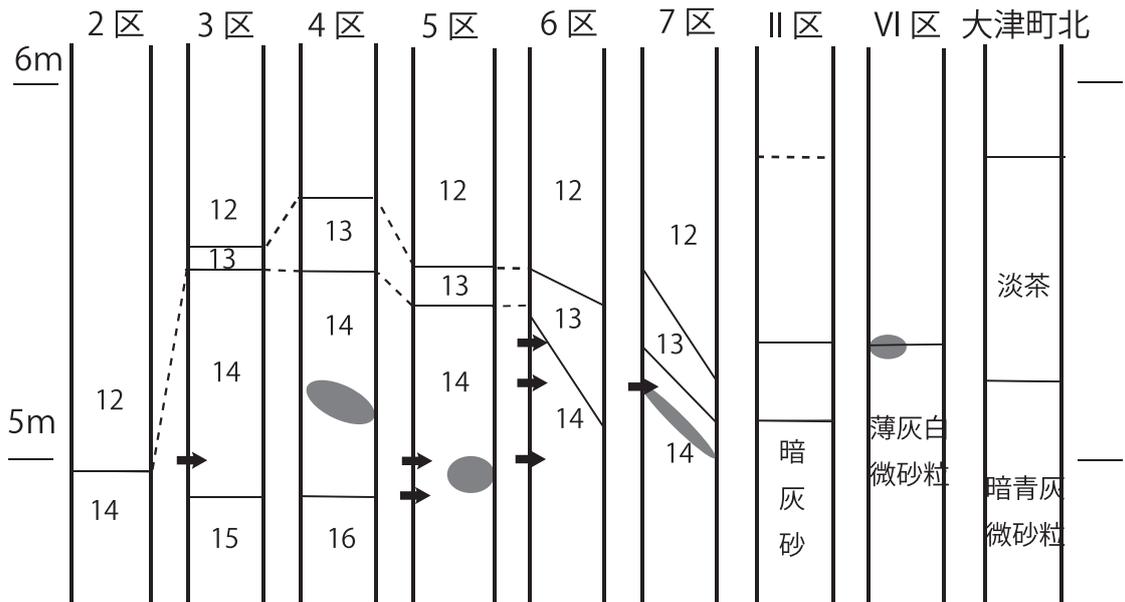
るが、14層(オリーブ灰色砂質土)は、弥生時代後期後葉から古墳時代前期の遺構が掘り込まれ、遺物包含層にもなっている。14層上面の標高は、遺跡の西側の3区や4区では標高約5.5mとやや高くなっている。3区から5区にかけての場所が最も高く、遺跡中央やや東寄りの6区や7区では東に向かって若干低く傾斜している。なお、Ⅱ区の「暗灰砂層」、Ⅵ区の「薄灰白層・微砂粒」、大津町北遺跡の「暗青灰層・微砂粒」、Ⅷ区の「微砂粒層」が14層とどのような対応関係にあるか不明ではあるが、Ⅵ区の土器集中部分の標高から考えると、14層と対応する可能性がある。一方北側の調査区では、1区の14層上面の標高は4.5mと南側に比べて低いうえ、「淡黒灰色・粘質土」や「暗黒色・粘質土」のように、砂質ではなく粘質の土が多く記載されている。このことから、14層は南側を中心に分布しており、北側はそれより標高が低いか、分布していない可能性が高い。なお、これらの粘質土は13層「暗黒褐色・粘質土」と対応する可能性がある。

大量の土器が出土した4区14層と7区5号溝の間に位置する5区と6区の遺構の状況を見ると、5区では特に調査区の東側で土器群や土坑が、6区では竪穴状遺構、土坑、土器群が確認されている。土坑や土器群のある調査区を挟むように大量の土器が出土した調査区が位置していることになる。土器が出土した標高をみると、4区では5.1~5.2m、5区では4.9~5.0m、6区の遺構検出面は5.0~5.3m、7区では前述のように東に向かって傾斜しており5.0~5.2mである(第2表)。周囲よりわずかに高まった微高地に集落域が位置していると考えられる。

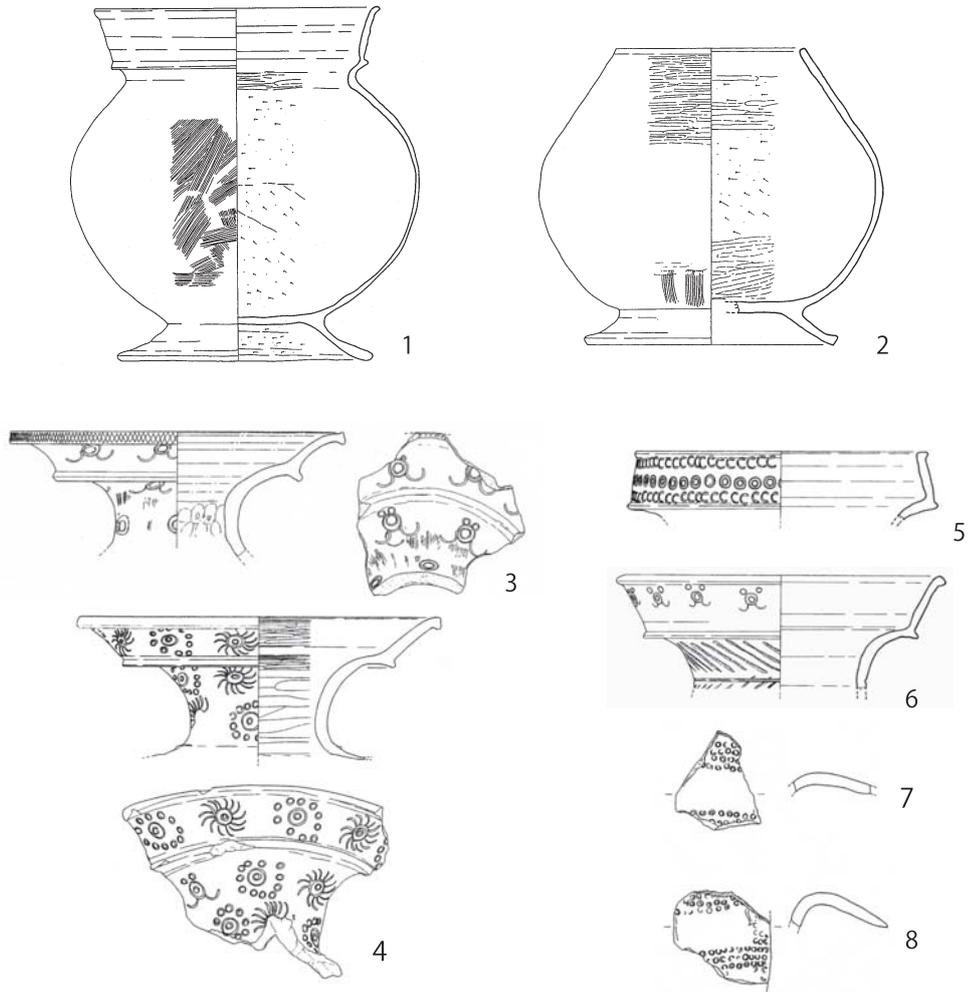
古墳時代前期の出雲平野の集落遺跡、例えば古志本郷遺跡や下古志遺跡、小山遺跡第3地点、天神遺跡では、集落域を囲むような溝(「環壕」と解釈することができる)から大量の土器が出土することが明らかになっている。このことから考えると、溝という明確な遺構を確認することは難しいものの、西側はⅦ区から4区にかけて、東側は7区から大津町北遺跡にかけての範囲は、集落域の範囲を示唆する



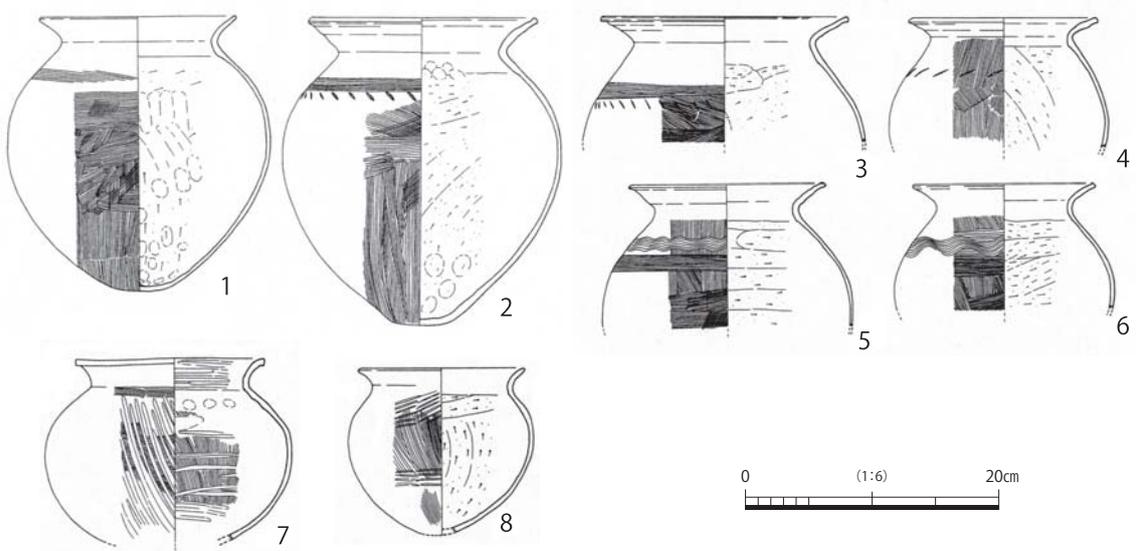
- 11：灰褐色・細砂
- 12：暗オリーブ灰色・砂質土
- 13：暗黒褐色・粘質土
- 14：オリーブ灰色・砂質土
- 15：黒色・粘質土
- 16：暗オリーブ灰色・シルト
- ➡：遺構検出面
- 網掛け：土器溜



第4図 中野清水遺跡・大津町北遺跡 土層柱状図 (S=1/20)



第6図 中野清水遺跡に特徴的な土器 (S=1/6)



第7図 中野清水遺跡・大津町北遺跡の外來系土器1 (S=1/6)

ものであり、前述の出雲平野の集落遺跡の溝と同様の機能や目的を持つものと考えられる（第5図）。4区と7区の間は約200m、Ⅶ区から大津町北遺跡まで広がるとするなら約400mになり、これが中野清水遺跡・大津町北遺跡の古墳時代前期の集落域の範囲と考えることができる。土器の出土状況では多くの調査区で土器群のように出土量の疎密があるのに対し、7区やⅦ区では線状または帯状に土器が出土しており、大津町北遺跡でもその可能性があることも、集落の範囲を考える上で示唆的である。

また、南側の調査区では継続して土器が出土する調査区が多いのに対して、北側の調査区は古墳時代前期に土器群が形成されるものの、その後は奈良時代まで土器の出土が少ない。このことから、中野清水遺跡の集落域は調査区の南に展開する一方、北側は低湿・粘質の場所が多く、あまり遺構を築くのに適さない土地であったと考えられる。中野清水遺跡、中野美保遺跡の北約100mには自然堤防の痕跡が指摘されているが、今回の検討からは遺跡の南側にも自然堤防のような微高地が存在していた可能性がある。

なお、中野清水遺跡では、遺跡東側の6区と7区において、標高0m付近までの土層調査が行われている（文献3、6-8頁）。これによると、標高2～4mでは細砂とシルトが堆積しており、細かい単位で細砂とシルトまたは腐植質土が互層状になっていることから、流水があり一部は湿地状になっていたとの記述がある。さらにその下の標高1～2mでは砂礫層が堆積しており、この砂礫層下面の年代は2,510±50yBP（Beta-181305）という放射性炭素年代が得られている。このことから、中野清水遺跡のあたりは縄文時代晩期～弥生時代前期にかけて堆積が進み、弥生時代中期中葉から遺構を築くことができるようになったこと、それまでの時期はむしろ中野美保遺跡のあたりが相対的に安定した環境であったことがうかがえる。

【中野清水遺跡の土器の特徴】

中野清水遺跡には特徴のある土器が出土する。壺や甕に台が付く「台付壺」「台付甕」が散見される。

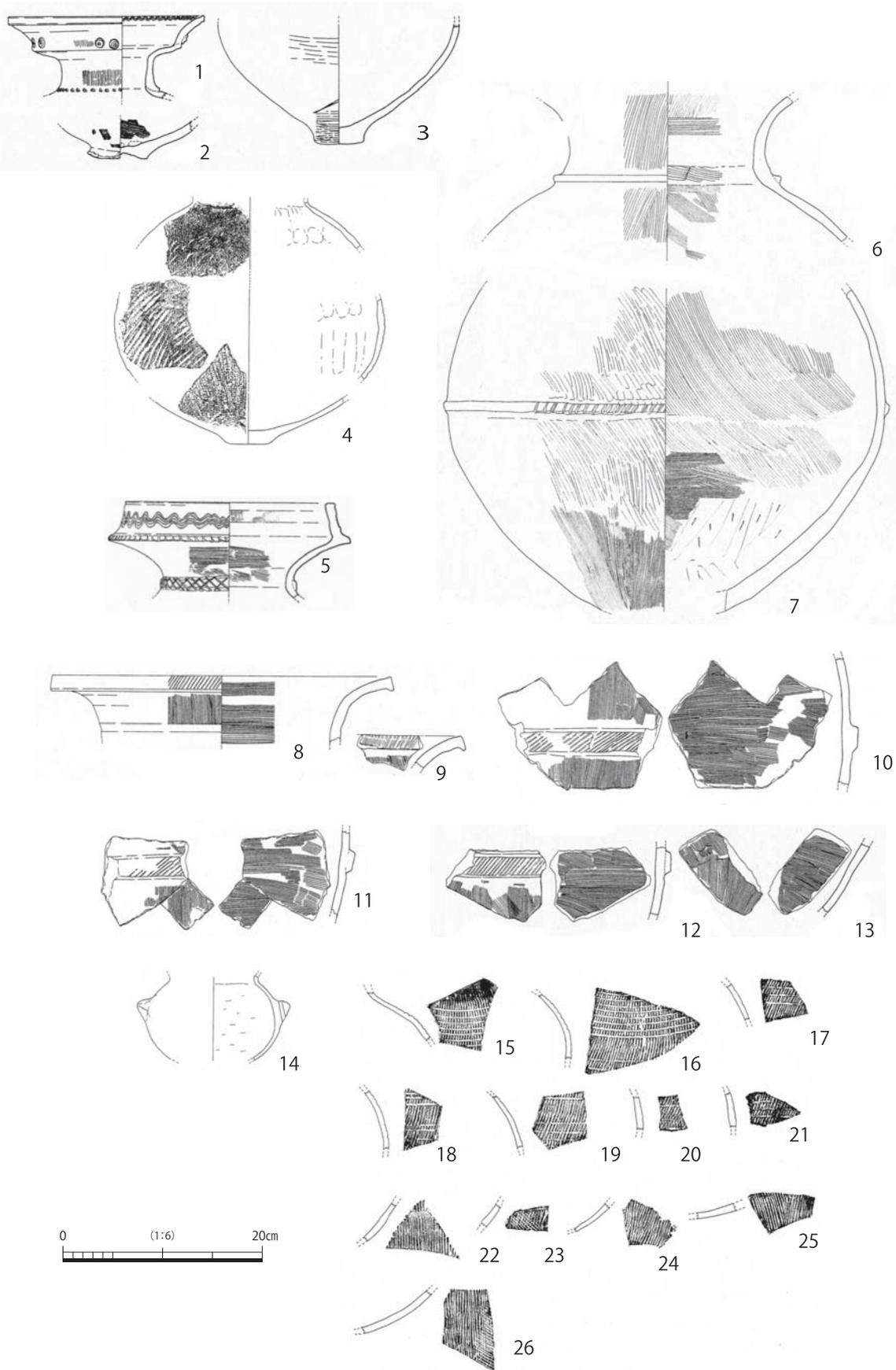
台部は「ハ」字状に短く直線的に伸びる（6-1.2）。また、壺の口縁部には過剰なまでの竹管文があるものがある（6-3～8）。なお、土器の色調は灰白色のものが多い。

さらに中野清水遺跡、大津町北遺跡では、古墳時代前期の多くの外来系土器が出土している。特定の調査区に集中することはないが、出土量の多い南側の4区から7区にかけて多く出土している。第3表に出土した土器を掲載し、主なものを第7～9図に図示している。その特徴として、次の四点を挙げることができる。

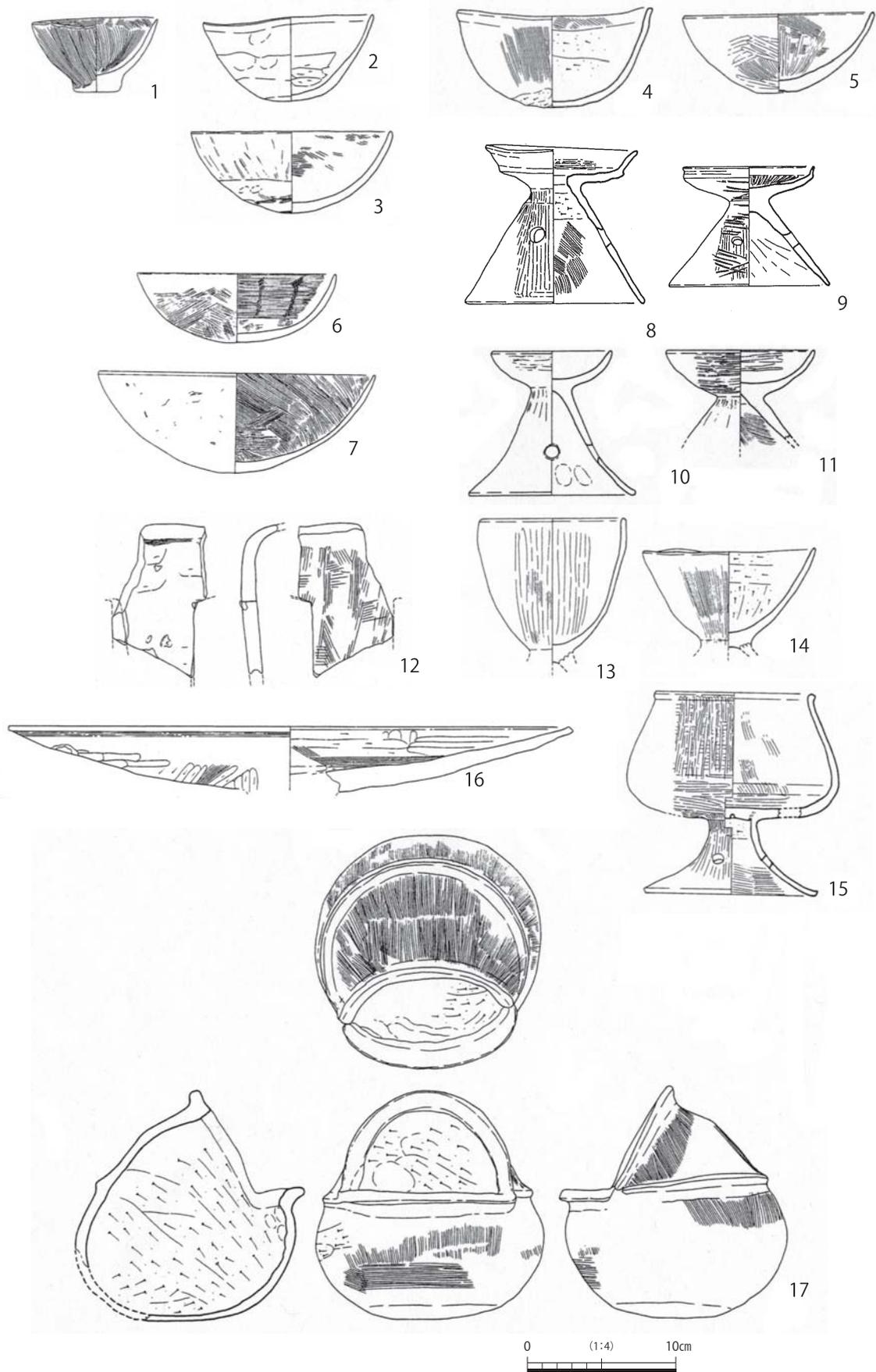
- ① 北部九州系（8-6～13）や西部瀬戸内系（8-5）、三韓系土器や陶質土器の壺（8-14～26）が出土する。この特徴は、山持遺跡や古志本郷遺跡など、他の出雲平野の遺跡と同じである。また、畿内系の二重口縁壺（8-1）や胴部のタタキ調整を残す壺（8-4）も出土する。
- ② 「く」字口縁の甕は出土するものの、量は少ない。古墳時代前期の中四国地方に特徴的な「布留形甕」（次山1997）が散見される（7-1～6）。
- ③ 小型器台が出土するが、中空で外面に稜のある小型器台（9-8）が出土するほか、小型器台の外面の調整には幅の狭いヨコヘラミガキがあり、「布留式」の特徴がある（9-9～11）（次山1993）。
- ④ 丸底や平底の鉢が出土する（9-1～7）。さらに、口縁が大きく開く高坏（9-16）や体部に長方形の透かしのある器台（9-12）、椀状の坏部のある小型の高坏（9-13.14）など、系譜が不明な器種がある。

また、手焙形土器は畿内に由来する土器であるが、中野清水遺跡出土例（9-17）は、丸底の鉢に覆部を付けたもので、覆部はやや小ぶりである。この特徴は、島崎氏の「B類」に相当すると考えられ、畿内だけではなく吉備との関係も視野に入れる必要がある（島崎2016）。

なお、6区から羽口が出土している。この羽口は基部が太いことから、古墳時代前期の可能性が高い。このほか、4区や6区からは鉄片や砥石が出土して



第8図 中野清水遺跡・大津町北遺跡の外来系土器2 (S=1/6)



第9図 中野清水遺跡・大津町北遺跡の外來系土器 3 (S=1/4)

第3表 中野清水遺跡・大津町北遺跡・中野美保遺跡の外來系土器

遺跡名	調査区/遺構名	挿図番号	器種	系譜	特筆事項	共伴する土器の時期	報告書の挿図番号	文献
大津町北遺跡	3層		壺	西部瀬戸内	内傾口縁	草田5期～小谷3式	19-94	1
大津町北遺跡	3層		壺	不明	短頸		20-95	
大津町北遺跡	3層		鉢	不明	平底		20-105	
大津町北遺跡	3層	9-1	鉢	不明	内外ハケ		20-106	
大津町北遺跡	3層	9-12	器台	不明	大型、方形の透かし		20-100	
大津町北遺跡	3層		器台	不明			20-101～103	
大津町北遺跡	3層		鉢	不明		20-107.108		
中野清水遺跡	I区		直口壺	畿内	布留式		33-11.12	
中野清水遺跡	I区		小型器台	畿内			35-39	
中野清水遺跡	II区3層	8-4	壺	畿内系?	外面タタキ、底部突出	草田6～7期	95-608	
中野清水遺跡	II区3層		壺	畿内系?	底部突出		95-611	
中野清水遺跡	II区3層		壺	北部九州系	端部刻み目		95-609	
中野清水遺跡	II区3層		鉢?	不明	内面ハケ		95-610.615	
中野清水遺跡	II区3層	8-14	壺	三韓系土器	肩部に取っ手、縦方向の穴、朝鮮半島西海岸の影響		95-618	
中野清水遺跡	II区3層		支脚	不明	中実		95-629	
中野清水遺跡	II区3層		器台	不明			96-640	
中野清水遺跡	II区3層		甕	中国地方西部?	中四国地方の布留形甕?		98-660	
中野清水遺跡	II区3層	9-6.7	鉢	不明	内面ハケ		98-661.662	
中野清水遺跡	III区3層		甕	畿内系?	口縁端部はねあげ		102-56	
中野清水遺跡	III区3層		鉢	不明	内側に突帯	102-58		
中野清水遺跡	IV区3層		壺?	不明	肩部に文様	118-22		
中野清水遺跡	IV区3層	9-16	高坏?	不明		120-35		
中野清水遺跡	IV区3層		鉢	不明		121-46		
中野清水遺跡	IV区3層		鉢	不明	取っ手	121-47		
中野清水遺跡	IV区3層		鉢	不明		121-49		
中野清水遺跡	V区		壺	不明	短頸	126-25		
中野清水遺跡	VI区		台付鉢?	不明		129-17		
中野清水遺跡	VI区		鉢	不明	く字口縁	129-10		
中野清水遺跡	VII区		壺	三韓系土器	肩部に取っ手	135-19		
中野清水遺跡	VII区		壺	三韓系土器	横方向の穴、慶尚道	135-20		
中野清水遺跡	VII区	8-6.7	壺	北部九州	頸部、胴部に突帯	138-36.37		
中野清水遺跡	VII区		壺	不明	直口のツボ	139-42～45		
中野清水遺跡	VIII区		甕?	不明	胴部タタキ	151-33		
中野清水遺跡	VIII区		甕	不明	く字口縁	152-39		
中野清水遺跡(2)	6区包含層	8-15～26	短頸壺	陶質土器		草田7期	82-6～17	
中野清水遺跡(2)	5区14層1号土器群		甕	中国地方西部	中四国地方の布留形甕		97-6	
中野清水遺跡(2)	5区14層11号土器群		甕	畿内	く字口縁、布留甕	草田7期～小谷3式	114-26～28	
中野清水遺跡(2)	5区14層11号土器群		鉢?	不明	く字口縁、内面ハケ		117-60.62	
中野清水遺跡(2)	5区14層16号土器群		甕	中国地方西部	中四国地方の布留形甕	草田6期	130-2	
中野清水遺跡(2)	5区包含層		壺	北部九州	胴部に突帯		175-2	
中野清水遺跡(3)	4区14層	7-8	甕	不明	く字口縁	草田5～7期	48-131	
中野清水遺跡(3)	4区14層	7-7	甕	不明	く字口縁		48-152	
中野清水遺跡(3)	4区14層		甕	中国地方西部	中四国地方の布留形甕		48-136	
中野清水遺跡(3)	4区14層		壺	不明	内面ハケ		53-204	
中野清水遺跡(3)	4区14層		台付無頸壺	不明			53-208	
中野清水遺跡(3)	4区14層	9-15	脚付無形壺	北陸系?			53-209	
中野清水遺跡(3)	4区14層	8-5	壺	西部瀬戸内系	内傾口縁		53-211	
中野清水遺跡(3)	4区14層		壺	西部瀬戸内系?	口縁直立		53-212	
中野清水遺跡(3)	4区14層		壺		胴部に突帯		53-213	
中野清水遺跡(3)	4区14層		小形器台	畿内?			56-291～293	
中野清水遺跡(3)	4区14層	9-10.11	小形器台	畿内?			56-294.295	
中野清水遺跡(3)	4区14層	9-13.14	小形高杯?	不明			56-297.298	
中野清水遺跡(3)	4区14層		高坏?	不明			56-305.306	
中野清水遺跡(3)	4区14層		有孔鉢	不明			56-315	
中野清水遺跡(3)	4区14層		鉢	不明			56-316	
中野清水遺跡(3)	4区14層	9-4.5	鉢	不明			56-317.318	
中野清水遺跡(3)	4区14層	8-8～13	壺	北部九州	西新式/糸島半島		57-326～58-331	
中野清水遺跡(3)	7区5号溝	7-1～6	甕	中国地方西部	中四国地方の布留形甕		草田6～7期	117-162.163.172. 173.175.176
中野清水遺跡(3)	7区5号溝		甕	中国地方西部	中四国地方の布留形甕			117-168～171.174
中野清水遺跡(3)	7区5号溝		壺	西部瀬戸内系	内傾口縁			117-177.178
中野清水遺跡(3)	7区5号溝	8-1～3	壺	畿内系	加飾二重口縁壺			117-179～181
中野清水遺跡(3)	7区5号溝		壺	不明				117-182
中野清水遺跡(3)	7区5号溝		直口壺	畿内	布留式			120-216
中野清水遺跡(3)	7区5号溝	9-8.9	小形器台	畿内?				126-355.356
中野清水遺跡(3)	7区5号溝		小形器台	畿内?		126-357～359		
中野清水遺跡(3)	7区5号溝	9-17	手焙形土器	畿内/吉備		127-366		
中野清水遺跡(3)	7区5号溝		鉢	不明		127-380		
中野美保遺跡	⑥⑥層		壺	北部九州	袋状口縁、在地生産か	5-28	6	

おり、規模は不明であるが鉄器生産を行っていたことがうかがえる（文献3、147-149頁）。また、大津町北遺跡や中野清水Ⅳ区、Ⅶ区、5区、4区14層、7区5号溝からは生漆採集容器が出土している。これらは古墳時代前期と考えられるが、遺跡の周辺で漆を採取していたことがうかがえる。漆の具体的な用途や漆を用いた製品を遺跡内で加工していたのか、他の遺跡で加工していたのかは判らないが、中野清水遺跡では鉄器の生産と漆の採取・精製を行っていたことから、手工業の発達を示すものである。

以上、中野清水遺跡を中心とする遺跡の各調査区の土層や標高を確認し、遺構や遺物の消長を明らかにした。そして、土器の出土量の多い部分（土器群）の範囲から、「集落域」の範囲や居住域を想定した。特に古墳時代前期には多くの調査区で土器が出土することから、出雲平野の中でも有数の集落遺跡の一つということができる。

また、第1表で示したように中野清水遺跡は土器の量は減少するものの、古墳時代中期から後期へ継続する。そして奈良時代には、隣接する中野美保遺跡とともに再び土器群や土坑などの遺構が築かれるようになる。

今回は中野清水遺跡の動態に焦点を当てたため、中野美保遺跡の四隅突出形墳丘墓との関係や他の出雲平野の遺跡、例えば山持遺跡や古志本郷遺跡との関係⁽²⁾について言及することはできなかった。今後検討を加えたい。

中野清水遺跡、大津町北遺跡の資料の見学に際しては、守岡正司、上山典子に便宜を図っていただいた。また角田徳幸から助言をいただいた。記して感謝する（敬称略）。

【註】

(1) なお、この背景に古墳時代後期～奈良時代前半に12層が堆積し、12層の堆積により、それまで低かった場所の高低差がなくなり、遺構が築かれるようになったことが指摘されている（文献2、354頁）。

(2) 古墳時代前期の土師器における山持遺跡と下古志遺跡の土器の特徴については、以前言及したことがある。

中川 寧2015「出雲平野の南と北—山持遺跡と下古志遺跡の検討—」『古墳出現期土器研究』第3号、47-50頁

【文献】

文献1 『大津町北遺跡 中野清水遺跡』一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5、2004、島根県教育委員会

文献2 『中野清水遺跡(2)』一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6、2005、島根県教育委員会

文献3 『中野清水遺跡(3) 白枝本郷遺跡』一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7、2006、島根県教育委員会

文献4 『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 中野美保遺跡 藤ヶ森遺跡 荻杼Ⅱ遺跡』、2001、出雲市教育委員会

文献5 『中野美保遺跡』一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4、2004、島根県教育委員会

文献6 『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集 中野美保遺跡 上塩冶横穴墓群第39支群 保知石遺跡』、2005、出雲市教育委員会

文献7 『中野西遺跡』出雲市北部第二土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書、2002、出雲市教育委員会

【引用文献】

池淵俊一 2008「第2節 古墳時代中期前半の遺構・遺物に関する諸問題」、島根県教育委員会編『九景川遺跡 一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1』、294-303頁

大谷晃二1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集、39-82頁

岡田裕之・土器検討グループ2010「出雲地域における古代須恵器の編年」、島根県古代文化センター編『出

雲国の形成と国府成立の研究』、13-43頁

鹿島町教育委員会編1992『講武地区県営圃場整備事業
発掘調査報告書5 南講武草田遺跡』

島崎 東2016「吉備の手焙形土器」岡山大学埋蔵文化
財調査研究センター編『吉備の弥生時代』、85-96頁

次山 淳1993「布留式土器における精製器種の製作技
術」『考古学研究』第40巻2号、47-71頁

次山 淳1997「初期布留式土器群の西方展開-中四国地
方の実例から-」『古代』第103号、135-156頁

松本岩雄1992「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編
年』山陽・山陰編、木耳社、413-482頁

松山智弘2000「小谷式再検討-出雲平野における新資
料から-」『島根考古学会誌』第17集、99-130頁

松山智弘2002「第6章第4節 神原神社古墳埋納坑出
土の土器について」、加茂町教育委員会編『神原神社
古墳』、198-209頁

松山智弘2015「4 山陰」、中国四国前方後円墳研究会第
18回研究集会編『前期古墳を再考するⅡ-古墳出土
土器をめぐって-』発表要旨・資料集、37-129頁

【出典】

第1～3、5図：文献3を一部改変

第4図：文献1.2.3をもとに中川作成

第6図1：文献1、Ⅱ区3層93-600、2：文献2、5区
14層8号土器群105-11、3.4：文献3、4区14層52-
198.50-171、5.6：文献1、Ⅲ区103-72.73

第7～9図：個々の土器の出典は第3表参照